

学会彙報

(昭和四十年十二月以降)

○卒業生論文梗概発表会及び予饌会

(昭和四十一年一月二十六日)

昭和四十年年度卒業論文提出者は二十名、修士論文提出者は三名であったが、そのうち十八名から研究論文の梗概を聞き、ひき続いて質疑応答を行なった。のち予饌会に入り、諸先生方から送別の辞を賜わったりして、楽しい一夕を過ごした。

出席者 舟橋、横超、山田、安藤、佐々木現、安井、雲井、桜部、坂東各先生、鍵主、長崎各助手、学生三十三名

なお、本年度のインド学及び佛教学専攻者の論文題目はつぎのとおりである。

○修士論文

○文学部

※リポジトリ非公開

○公開講演会 (三月四日)

フランス学士院会員であり、College de France の名誉教授であるドミエヴィル (Paul Demieville) 先生が、京都大学の招聘で二ヶ月間滞日される期間を利用し、本学においても先生の講演会を開催した。先生は本学の山口益名誉教授とともにシルヴァン・レヴィ (Sylvain Lévi) 先生の高足の門下であり、広範且つ甚深の学識をもつ佛教学界・シナ学界の重鎮である。そして「ヨーロッパ特にフランスにおけるシナ学・佛教学の現状」と題して、現在の佛教学に関するヨーロッパの学界、特に若い世代の研究方法やその実態について、二時間にわたり有意義な

講演を拝聴した。

出席者 山口、舟橋、野上、横超、安藤、安井、雲井、佐々木教、佐々木現、桜部、平野各先生、鍵主、長崎各助手、学生数名

○昭和四十一年度人事移動（四月一日）

本年度より鍵主良敬助手が専任講師に昇格され、図書館勤務であった三桐慈海氏をあらたに研究室の助手に迎えた。

○四月八日、佐々木現順教授がドイツのハンブルグ大学の客員教授として渡欧され、一年間佛教学の講義を担当されることになった。

○四月十日、坂東性純助教授が五月初め米国プリンストン大学において行なわれる第二回エンドワード・F・ギャラヒュー宗教学会議に出席のため渡米、六月中旬に帰朝される予定である。

○新入会員歓迎会及び菊池法純氏帰国歓迎会（五月十一日）

洛北の名利本法寺において、今年度あらたに迎えた新入会員四十二名（うち大

学院博士課程二名、修士課程十六名、文学部二十四名）と、諸先生、諸先輩数十名とが一同に会して、自己紹介や歓談を交わした。本年度は従前より新入会員が多く、なかでも中国佛教学専攻生の多いのが目立つ。

ひきつづき、三年間外務省のチベット語学研修生として、インドのデリー大学に派遣されていた菊池法純氏が帰国されたので、今日のチベットを中心とする国際情勢について興味ある話をうかがった。

出席者 舟橋主任教授以下諸先生、学生六十六名

○本年度講義題目（大学院関係のみ）

△主要科目

講義 Lankavatara-sūtra の研究

文献研究 四百論釈疏 教授 安井 広済

文獻研究 四百論釈疏

名譽教授 山口 益

演習 梵文称友造俱舍論疏界品

教授 舟橋 一哉

法華玄賛 教授 横超 慧日

摩訶止観 教授 安藤 俊雄

△関連科目

講義 華嚴縁起論の研究

教授 山田 亮賢

唯識義の研究 教授 富貴原章信

真宗分派史論 教授 藤島 達朗

曇鸞伝研究 教授 野上 俊静

神と世界 教授 金松 賢諒

現代における宗教の諸問題 教授 西谷 啓治

ウパニシャッドの哲学 講師 佐保田鶴治

インド学序説——学派哲学—— 教授 雲井 昭善

（文学部関係の講義題目は次号に掲載の予定）